

新型コロナウイルスの感染防止に関する 授業実施ガイドライン（教職員・学部学生・大学院共通）2020.7.10

総合科学部長
大学院創成科学研究科地域創成専攻長
大学院創成科学研究科臨床心理学専攻長
大学院総合科学教育部長

■授業実施について（教員向け）

1. 遠隔授業

- ・感染防止の更なる徹底と3密（密閉・密集・密接）の回避に伴う教室不足に対応するため、「BCPレベル0」となるまでは遠隔授業を推奨する。
- ・遠隔授業の直近に対面授業がある場合の学生の移動負担やネット環境等を考慮し、講義を録画撮りして配信し、いつでもその講義が視聴できる遠隔授業（オンデマンド授業）の導入についても検討する。

2. 対面授業

- ・対面授業を実施する場合は、予め別紙様式を学務係へ提出する。
- ・対面授業を実施する場合であっても、BCPレベルの変動等により対面授業が実施不可能となった場合は、速やかに遠隔授業に切替え、学年暦に沿った授業実施が可能な体制を整える。
- ・講義室の収容定員に対する受講生（実際に教室にいる学生数）の割合は、50%以下とする。
- ・教員による飛沫の飛散による感染を防ぐため、席の最前列を空ける等、教員と学生との間隔を2メートル以上確保するとともに、授業中は適時マイクを活用し、学生が聴き取りやすいよう配慮する。
- ・学生から、基礎疾患等の理由により対面授業への参加に不安がある等の申出を受けた場合は、対面授業と遠隔授業を併用する等、可能な限りの配慮を行い、欠席扱いとはしない。
- ・授業開始前に、出席学生に以下のことを確認する。
 - ①発熱やだるさ・味覚臭覚障害等の体調不良は無いか
（体調不良者がいた場合は、学務係に連絡する。）
 - ②マスクを着用しているか（していない者がいた場合は、学務係へ向かわせる。）
 - ③手指の洗浄、消毒を行っているか（していない者がいた場合は、廊下の消毒液で消毒させる。）

- ・上記①に当てはまる学生がいた場合や、学生が新型コロナウイルスに罹患し（疑いも含む）、授業を欠席した場合は、欠席扱いとはせず、欠席回数分の補講（課題提出等の代替措置も可。）を行う。
- ・講義室（実験室、実習室等を含む。）では密閉空間にならないよう、気候上可能な限り常時、可能であれば2方向の窓又は扉を同時に開けて換気を行う。エアコン使用時においても、定期的に換気を行う。（60分につき10分以上）
- ・配付物は、列ごとに配るといような配り方を避け、配付物を介しての感染を予防する。
- ・語学系の科目においては、学生を向かい合わせで会話させることを避け、会話する際は前方2m以内に人がいないよう配慮する。
- ・他の受講者に直接触れるような内容を極力避ける。（特にウェルネス系の実習科目）
- ・実験・実習を伴う授業では、教員、学生ともにマスクを着用するとともに、可能であれば、ディスポーザブルの手袋を着用する。
- ・実験・実習の開始前後には、必ず速乾性消毒薬の使用又は手洗い等により、手指の消毒を行う。

■対面授業への参加について（学生向け）

- ・教室に入室する前に、廊下に設置している消毒液で手指の消毒を行うこと。
- ・授業出席前に以下のことを確認し、該当する場合は、授業への出席を中止すること。
 - ①発熱（注）やだるさ・味覚臭覚障害等の体調不良は無いか
 - 該当する場合は、授業開始前に以下の専用フォームから必要事項を入力するか、学務係に電話で連絡するとともに、履修している全科目の担当教員にも連絡する。

【体調不良時の入力フォーム】

<https://forms.office.com/Pages/ResponsePage.aspx?id=pMNxjhF9keHFxah1rDKmCi8SffWjYhDqT-EzVZv7b9UQUpYMEMxSVIGMvvUSIFaTIM2QzIyWDQzSC4u>



②マスクを着用しているか

→ 手作りマスク等も可。(当日、忘れた場合は学務係へ相談する)

(注) 体温には日内変動があるため、発熱した翌日の朝の体温が平熱であっても解熱したとは判断せず、下記を目安とすること。また、解熱剤を服用した状態で平熱となっても「解熱」とは判断しないこと。

- ・ 37.0 度以上 37.5 度未満の場合でも、平熱よりも高いと判断される場合は、発熱と考えて解熱後 2 日を経過するまでは登校しない。
- ・ 37.5 度以上の発熱があった場合は、解熱後 2 日を経過するまでは登校しない。
- ・ 38 度以上の発熱があった場合は、その翌日から 5 日を経過し、かつ解熱した後 2 日を経過するまでは登校しない。

- ・ 授業の前後等に、教室や廊下等において、3 人以上が 2 m 以内に集まったの会話や飲食を自粛し、濃厚接触（※）を避けるとともに、3 つの密（密閉・密集・密着）の回避に努める。
（※）手で触れることのできる距離（目安 1 メートル）で、発症の 2 日前までに（マスクなどの）必要な感染予防策なしで 15 分以上の接触があった者

- ・ 授業終了後は学内に留まらず帰宅し、自宅で事前・事後学修を行うこと。

■日常生活における注意事項（学生向け）

- ・ 規則正しい生活を心がけ、日頃から十分な栄養、睡眠時間の確保を意識する。

- ・ 手指衛生（手洗い、手指消毒）や咳エチケットを厳守する。

- ・ 基礎疾患等の理由により、対面授業への参加に不安がある場合は、授業担当教員にメール等にて申し出ること。（学生番号及び氏名を明記する。）
教員の連絡先がわからない場合は、学務係へ連絡する。
総合科学部事務課学務係 TEL 088-656-7108 Mail skgakumk@tokushima-u.ac.jp

- ・ 毎日、健康状態の確認（体温測定を含む）を行う。
教育実習、臨床心理実習等に参加される学生は、以下のことを遵守すること。
（1）体調で気になることがある場合は、事前に学務係に電話で相談する。
（2）実習前日から毎日、実習現場へ行く前に健康状態を確認し、体温および自覚症状の有無を学務係にメールで報告する。締切は毎日昼 12:00。メール送信方法の詳細は別途通知する。
報告を怠っている学生については、感染症対策が十分にできないと判断し、実習の履修停止等の対応を行う。

- ・不要不急の外出を避けるとともに、3つの条件（換気の悪い密閉空間，多くの人が密集，近距離での会話や発話）を回避し，検温等による健康管理に努めること。
- ・体調不良等がある場合は，以下の専用フォームまたは電話から，必ず学務係へ連絡するとともに「新型コロナウイルスに関する措置」（HP掲載）に従って対応すること。

【体調不良時の入力フォーム】

<https://forms.office.com/Pages/ResponsePage.aspx?id=pMNxhjhF9keHFxah1rDKmCi8SffWjYhDqT-EzVZv7b9UQUpYMEMxSVIGMVVUSIFaTIM2QzIyWDQzSC4u>



- ・3つの密（密閉・密集・密着）を回避できない，また，マスクを着用しないよう指導される等，感染予防上，問題があると考えられるアルバイトは自粛すること。
- ・新型コロナウイルス感染症に関する不適切な情報を SNS 等に流さない。
- ・本人又は同居する家族が PCR 検査等を受けることとなった場合は，速やかに学務係へ連絡する。
- ・徳島大学及び総合科学部のホームページを少なくとも1日1回は確認する他，下記ホームページ等を参照し，新型コロナウイルス感染症に関する最新情報の入手に努める。
徳島大学 HP <https://www.tokushima-u.ac.jp/>
徳島大学総合科学部 HP <https://www.tokushima-u.ac.jp/ias/>
内閣官房 HP https://www.cas.go.jp/jp/influenza/novel_coronavirus.html
首相官邸 HP <https://www.kantei.go.jp/jp/headline/kansensho/coronavirus.html>
厚生労働省 HP https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html

■オンラインコンテンツを使用する科目の受講に当たっての注意事項（学生向け）

- ・受講前に，自身の携帯プランの確認を行い，通信料に留意する。
- ・無料W i F i を利用するため，ファーストフード店，ファミリーレストラン，カフェ，ショッピングモール等に滞在する行為は自粛する。
(生活用品等の必要不可欠な買い物についても，1時間以内を目安とし，長期滞在を避けること。)

- W i F i 等を利用するために大学の講義室等を利用する場合は、各自で換気等に努め、席の間隔を1m程度確保するとともに、常時マスクを着用する（手作りマスクでも可）。
※1 m程度の間隔を確保できる場合でも、人が多いと感じたら意識的に移動するよう心がける。
- 授業のために配付された資料（動画コンテンツ等を含む）や、リンク URL 等を第三者に配布することは、著作権等の侵害にあたる可能性があるため、絶対に行わないこと。